

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500030
法人名	株式会社 お茶屋の里
事業所名	グループホーム 下の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-23
自己評価作成日	平成22年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

庶民的で、誰もが気楽に訪問することが出来る地域に密着した事業所

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●外出時には、ご家族も電話でお誘いして、一緒に出かけて楽しめるように支援されている。又、誕生日には、ご家族にも声をかけて、一緒に利用者が「食べたいもの」を食べに外食されることもある。日頃は、年中お花が楽しめる遊歩道や緑が多い裏のお寺等を散歩されている。
●居間には、テーブルが2つあり、調査訪問時、午前中には、ボールを使った運動をされたり、折り紙を折る等、テーブルごとに違う活動をされていた。窓を大きく取り、明るい造りになっているが、日差しのまぶしさを和らげるために、カーテンを閉めるようにされている。職員は「利用者が外の景色等が見られない」ことを察して、ススキやお花等、季節のものを飾るよう気配りされていた。消臭機器を廊下に置いて臭いにも気を付けておられる。新居浜の太鼓祭りのポスターや利用者の作品を飾っておられるユニットもあった。お手玉が置いてあり、時々利用者がお手玉を楽しむようである。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 下の茶屋

(ユニット名) モクレン

記入者(管理者)

氏 名 筒井 房代

評価完了日 平成 22 年 9 月 17 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			以前までのグループホームの理念がなかなか覚えにくいものであったので簡単に意識しやすい理念に皆で話し合っ作り直し、朝礼で毎朝唱和している。	
			(外部評価)	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所では、8月に新しく理念を「笑顔 感謝 交流」と作成して、居間や事務所に掲示されている。今回、自己評価に取り組み、管理者は「開設時には行っていたが、現在、滞っていること」を気付かれて、まずは、朝礼時、職員皆で利用者の状態等の情報を共有することや、理念を唱和することを再開された。	
			(自己評価)	
			7月に夕涼み会を開き近所の方々を招待したくさんの方が参加して下さり、楽しいひと時を過ごすことができた。 月1回施設周囲の清掃作業を行ったり、運営推進委員会で地域の行事の情報を得たりボランティアグループの協力を得たりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(外部評価)	
			事業所で行った夕涼み会に、子ども達にも楽しんでもらえるように、近隣のお宅に直接、誘いに行かれたり、たこやきやフランクフルト等のチケットを配布された。夕涼み会時には、子ども達が事業所に来てくれて、利用者の「笑顔」が多くみられたようである。又、職員の地域のネットワークを活かして、金魚すくいの準備等をされた。	夕涼み会のお誘いに回られた際、管理者は「ホームを知らない方が多い」ことを実感されたようだ。今後、事業所側から地域に出かけて行く機会や、職員は「事業所の駐車場等を利用して外で行う行事を計画して、地域の方と「交流」する機会を作りたい」と話しておられた。
			(自己評価)	
3			運営推進委員会で地域の方々と情報交換し理解を得られている。 学習会は前年度は行っったが、継続できていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)	
			地域の方々や入居者ご家族様のご参加を頂き、2ヶ月に1度開催しており、入居者の現状や今後の行事報告などを行っている。その中で地域の皆さんと認知症についての意見交換などを行っている。	
			(外部評価)	
			9月までは、会議にご家族の参加はなかったようであるが、9月の会議は、日頃からよく事業所に訪れてくれるご家族に声をかけて、1家族の方に参加していただいた。ご家族から「事業所を利用して本人が落ち着いた」と感想をいただいたようだ。又、会議に、公民館長の方や民生委員に参加いただき、事業所から行事やケア等の取り組みを報告して質問や感想をいただいている。	今後さらに、ご家族にも参加していただきやすい会議をすすめていかれてほしい。食事や日々のケア、災害対策や重度化支援について等、利用する側からの意見もお聞きして、サービス向上に活かしていかれてほしい。さらに、管理者は「認知症の理解を深めるための勉強会」等も行いたいと考えておられた。いろいろな方にかかわっていただきながら、協力し合えるような体制作りに努められ、牽いては、利用者のよりよい暮らしに反映していかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			2ヶ月に1回の運営推進会議に参加して頂き協力関係は築けている。	
			(外部評価)	
			介護相談員の方が来られて、居室で利用者とお話をされている。又、市内の地域密着型サービス事業所が集まる会にも参加されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束についてはスタッフ間で話し合い理解している。無意識に行ってしまうことがない様注意している。	
			(外部評価)	
			利用者が居室のベッドからの立ち上がり時等に転倒することを防ぐため、現在、センサーを取り付けておられる方が5名おられる。センサーが鳴ると職員が駆けつけるようになっているが、利用者の行動等の把握にも努め、センサーに頼らなくてもすむようなケアの工夫についても検討を重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会等の場で、介護の方法を話し合い、言葉遣いを始めとし、介護技術についても検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及びリーダーは研修等で学んでいるが全職員のものとはなりえてない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項の説明を行い、納得して頂き契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回、家族へ利用への状況の報告をしており入口には意見箱を設置している。 面会時には話しやすい雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) ご家族の来訪時や電話でご意見や要望を聞くようにされている。ホーム便りは、ご家族に送付されたり、玄関にも置いてあり、親族の方が来られた際には見て「普段の様子がよくわかる」と喜ばれるようである。利用者ご本人の昼食の食事介助に来てくださるご家族もある。又、調査訪問時には、数名のご家族の来訪があり、ご本人と外出される様子が見えた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月1回全体会、ユニット会を行い、スタッフ全員での話し合いを行っている。	
			(外部評価)	
			6月に新しい管理者の方に代わられて、管理者は、職員の声を聞きながら一緒に考え、取り組めるように努めておられる。夕涼み会の内容等についても、職員のアイディアやネットワークを活かして取り組まれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			昨年、業務改善を行い、1年間を振り返り業務の均等化を図るため、新たに見直しを行い、改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにし、全体会で発表し共有するよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			グループホームの各研修や相互研修で交流を持ちサービスの質向上につなげている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前面接を実施し、本人・家族からの話を充分聞くよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 新規入居時には家族に出向き本人家族と十分にコンタ クトをとるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 常に受診を希望される時は支援できる様努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 各自出来ることは声掛けし協力し合っている 食事の準備・片づけ・掃除・洗濯物干したり畳んだり など。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に情報を提示し行事への参加の声掛けなどして関 係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) いつでも誰でも来てもらえるようにしている 近所からの入所されている方もおり、遊歩道の散歩中 になじみの方とお話したりすることもできている。 (外部評価) ドライブで利用者の懐かしいような場所を通ると、お 若い頃の思い出を話してくださる利用者もある。ご家 族と一緒に、知人のお見舞いに行かれる利用者もい る。	

自己 評価	外部 評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日、朝、全員でラジオ体操をしたりして、なるべく長くホールで過ごしている。一緒に歌ったり、話の合いそうな他のユニットの入居者とも交流出来る様支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院から他施設へ移るケースが多く関係が切れてしまいがちである。	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話に折り込んで聞いたり家族の訪問時に情報を得る様にしている (外部評価) 日々のかかわりの中で職員は、利用者の思いの把握に努めておられる。昼食後の過ごし方等についても利用者のペースを大切にされており、居室で横になっておられる方や居間のソファでくつろいでおられる方もみられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族・担当者などから情報を得る	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様の行動を観察し、会話の中から性格やなじみの暮らし方を探る様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価)	
			利用者の現状や思い、課題などを多くのスタッフそれ ぞれが感じていることをあらいだし、その中から共通点 をみつけ介護計作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(外部評価)	
			ご家族の来訪時に要望をお聞きしたり、担当職員等と も話し合い、ケアマネージャーが介護計画を作成され ている。計画は3カ月ごとに見直しておられる。ご家 族の来訪時等に計画を見ていただきながら説明をされ たり、遠方のご家族には送付し電話で説明されてい る。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価)	
			お誕生会の外食や外食の支援などの際に家族を招待し たり、家族が来られない時は、スタッフがボランティ アで支援に入ったりすることもある。行事のある時は 外部の人的支援、物理的支援網が出来つつある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価)	
			不十分である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			入居時に受診先の確認と希望を聞いている。往診の際 本人の状態を付き添ってドクターに伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(外部評価)	
			事業所の職員体制等について、ご家族に現状を伝えて 「協力し合って利用者ご本人を支えていけるよう」お 願いされており、受診の付き添いが可能なご家族に は、付き添いをお願いして、又、ご家族の事情や都合 等に合わせて、職員が受診に同行されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時は担当Dr.看護師、ソーシャルワーカーとの面談 を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			担当Dr.や医療機関とも相談し、その後の受け入れ先に 引き継いでいる。	
			(外部評価)	
			事業所では、看取り支援は行わない方針であり、医療 機関と相談して、その後の受け入れ先に引き継ぐよう になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応方法については、書類にまとめており、それに各自目を通す様になっている 訓練等は行ってないので今後改善する必要がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練は行っている。 とくに最近では夜間の火災の発生想定で行った。 (外部評価) 消防署の協力を得て、夜間、台所からの火災を想定した避難訓練を行われた。緊急連絡網を実際に回したり、消防署への通報訓練等も行われた。事業所は建物の2・3階部分に位置していることもあり「いざという時の協力者の必要性」を感じられたようである。来年度、スプリンクラーを設置する予定になっていた。	さらに、地域との関係作りをすすめ、協力者を増やしていかれてほしい。又、出火場所を変えたり、地震等、いろいろな場面を想定した訓練を重ね、利用者・職員が安全に避難できる方法を見出していかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人らしい暮らしが出来ているか、利用者本位の支援が出来ているかを常に考えながら支援している。役割を持ってもらいながら何気ない支援の中、尊厳・誇り・プライバシーを保つ言葉かけや居場所、環境作りの見直しをしている。 (外部評価) 外部研修等、コミュニケーションを学ぶ研修に参加されている。調査訪問時、落ち着いた様子の利用者に、職員は傍に居て見守っておられた。	さらに、利用者の「笑顔」を引き出すためにも、職員の利用者への対応や言葉かけ等について、職員で集まり点検したり勉強する機会を作ってはどうか。職員個々のスキルアップから事業所のケアの質向上を目指していかれてほしい。さらに、そのような取り組みを運営推進会議時やご家族にも報告して、ご意見や感想を聞いてみてはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフの一方的な支援にならない様、本人が撰択出来る様な声かけを重視している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間、食事時間などは、本人の生活リズムに合わせて行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で化粧品を持ってくる人もいる 月に1度訪問美容師が来訪し、車イスの方でも自分の好きな姿で居られる様に散髪を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は作っていないが、誕生日に利用者さんの好きな物、食べたいものを聞いてスタッフと一緒に調理する様な機会も作っている。 (外部評価) 事業所の食事は、出来上がった食事が届くようになっており、職員も一緒に同じ食事を利用者と食べておられた。食後に、コーヒーや紅茶等、お好きなものを飲む方もみられた。職員と食器洗いをされている利用者の姿がみられた。お刺身等の生ものはメニューにはないようであるが、希望があれば外食をされるようである。又、時にはお好み焼きやそうめん流し等、利用者と相談しながら作ったり、個別に「うどんが食べたい」方と、職員がうどんを食べに行かれたりすることもある。残食が多いものは「栄養委員会」で伝えて、改善してもらえるようになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分や食事摂取量は把握・記録している 一人一人の好みや能力に合わせた物を用意し、摂取量が少なくなる様に支援している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアと、毎夜の入歯の洗浄は行っている	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表を基に、声かけや誘導に心がけている	
			(外部評価)	
			職員は、排泄記録に沿って、声かけや誘導にてトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			個人の便周期などに注意し薬の服用を行ったり、水分管理や毎日のラジオ体操も実施している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			週3回以上の入浴を実施し、失禁後の入浴も行っている	
			(外部評価)	
			職員の提案で「竹酸液」を使って湯船で温まれるように工夫されたり、寒がりの方は、湯船で温まり、シャワーチェアーをさらに使用される方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			入浴後の休息やバイタルチェックを目安にするなどして個人の体調に合わせて対応している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎回、服薬確認を行ない、薬に変更があった時には数日間、個別の記録を取り注意している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日、レクリエーションに心がけ、気分転換に出かけたり麻雀やぬり絵なども取り入れている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る限り毎月テーマを決めて行事をやっており、家族さんの協力もあり、全員参加の外出なども行っている。 (外部評価) 外出時には、ご家族も電話でお誘いして、一緒に出かけて楽しめるように支援されている。又、誕生日には、ご家族にも声をかけて、一緒に利用者が「食べたいもの」を食べに外食されることもある。日頃は、年中お花が楽しめる遊歩道や緑が多い裏のお寺等を散歩されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で管理が出来ている人は2名のみ 必要に応じ一緒に買い物に出掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 届いた手紙や葉書きなどは本人にお渡ししている。必要な場合は電話をかける等行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			毎朝全体の清掃、整理に努め季節の花を飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			居間には、テーブルが2つあり、調査訪問時、午前中には、ボールを使った運動をされたり、折り紙を折る等、テーブルごとに違う活動をされていた。窓を大きく取り、明るい造りになっているが、日差しのまぶしさを和らげるために、カーテンを閉めるようにされている。職員は「利用者が外の景色等が見られない」ことを察して、ススキやお花等、季節のものを飾るよう気配りされていた。消臭機器を廊下に置いて臭いにも気を付けておられる。新居浜の太鼓祭りのポスターや利用者の作品を飾っておられるユニットもあった。お手玉が置いてあり、時々利用者がお手玉を楽しむようである。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			なじみの物等生活習慣に合ったものがおかれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			居室には、ご家族が観葉植物等を持って来られてご本人と一緒に世話をされている方や、衣類や押し入れの整理に来てくださるご家族も多いようだ。夕涼み会時の金魚を居室において、えさをやる等世話しておられる方もある。職員からのお誕生日祝いの色紙や、ご自分で塗った塗り絵のカレンダーを貼っておられた。	
55			(自己評価)	
			夜間の行動には注意し、センサーを利用しながら安全な生活を送れる様な介助に努めている。	